

東北大学大学院文学研究科が一般市民向けに開催してきた「メトロでカルチャー」を再開します。  
今回は、東洋・日本美術史を専門とする長岡龍作教授と杉本欣久准教授が講演を行います。

# 美術の向こうに 見えてくるもの

2024年

3月9日(土) 13:30-16:30

入場無料  
申込み不要

会場 東北大学文学部第1講義室



東北大学川内南キャンパス内  
地下鉄東西線川内駅.....徒歩5分  
国際センター駅.....徒歩6分(坂・階段あり)  
※会場に駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



## ① 京都の災害と絵画

—龍に込められた思い

杉本 欣久 (准教授 | 日本近世絵画史)

日本史上の絵画作品は、ただ目を楽しませるという性格にとどまらず、宗教や思想を踏まえて象徴的に表されたものがたくさんあります。けれども現代を生きる我々は、そのような過去の記憶を受け継いでおらず、込められた意図に気づかないことも多いのです。そこでこの講座では京都本法寺の塔頭・尊陽院の天井画を例に挙げ、天明8年(1788)に京都の5分の4を焼いた大火からの復興で描かれた龍に、いったいどのような思いが込められたのかを解き明かしていきます。



## ② 仏教美術のひみつ

—見える世界に隠されているもの

長岡 龍作 (教授 | 日本彫刻史・仏教美術史)

古来日本人は、仏教信仰との関わりの中から美術を生み出して来ました。見えない世界を構想する仏教にとって、それを視覚化する美術はなくてはならないものだったからです。したがって、仏教美術は、表現された見える世界の背後に見えない世界を隠しています。この講座では、そうした隠れた世界を抱える仏教美術のひみつについて、すこしだけお話ししたいと思います。



東北大学広報活動キャラクター・研一

メトロでカルチャー

Metro de Culture!

主催：東北大学大学院文学研究科  
問合せ：東北大学文学部・文学研究科総務企画係  
TEL 022-795-6003  
E-mail art-syom@grp.tohoku.ac.jp  
HP <https://www.sal.tohoku.ac.jp>



東北大学